

領域2 高度かつ専門的な図書館の知識・技術の向上(区分B)

レファレンスツールの評価

1 はじめに

- 自己紹介
- 本日のプログラム

2 都立中央図書館におけるレファレンスサービスの現状

平成13年度統計から見る現状と、平成14年度統計における質問種類別比率

3 レファレンスツールの評価のねらいと視点

- 利用者の求める資料や情報を迅速かつ適切に案内できるツールとは?
- 適切な場面で目的にあったレファレンスツールを選択し、活用する技術を身につけるには?
- レファレンス技術や能力のレベルアップや情報の共有化を図る日常的工夫とは?
- ツール評価を生かして、レファレンスコレクションを一層豊かなものにするには?

4 受講者アンケート結果 その1 = レファレンスブック

『こいつは使える!レファレンスブック あなたの10冊』(参考調査業務実務担当職員懇談会編、都立多摩図書館・東京都市町村率図書館長協議会、1999年3月)の調査方法を参考にして、昨年度に引き続き「あなたのおすすめレファレンスブック」のアンケートを実施。アンケート回収数:2003年(今回の受講者のうち35名) 2002年度(昨年の受講者38名) 1999年(東京都三多摩地区レファレンス担当職員90名)

順位	書名	2003年 票数	2003得 票率	1999年 順位	2002 年 順位	順位	書名	2003年 票数	2003得 票率	1999年 順位	2002 年 順位
1	日本大百科全書	16票	48%	1	3	9	大漢和辞典	7票	21%	9	9
2	世界大百科事典	13票	39%	13	6	11	国書総目録(補訂版)	6票	18%	9	7
2	日本国語大辞典	13票	39%	3	2	11	日本書籍総目録	6票	18%	7	7
4	理科年表	12票	36%	4	2						
5	現代用語の基礎知識	11票	33%	9	4	13	絵本の住所録	5票	15%	44	
5	広辞苑	11票	33%	5	9						
6	国史大辞典	9票	27%	2	1	13	大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録	5票	15%	9	8
7	現代日本人名録	8票	24%	16	6						
9	Imidas	7票	21%	8	6	13	日本国勢図会	5票	15%	28	10

- 支持された要因はなにか。
- 類書との相違、特徴はなにか。
- 電子メディアとの関連。

5 レファレンスブック評価のポイント

『情報源としてのレファレンスブック』6訂版 長澤雅男著 (日本図書館協会 2001年刊)

- 範囲の設定、内容の扱い方、項目の選定、配列方法、検索手段（目次、索引の種類や精度）収録情報の正確さ
- 形態（印刷、挿図、造本）

6 レファレンスブックのガイド - 図書の内容を客観的に判断するために

『日本の参考図書』第4版（日本図書館協会 2002年刊）

参考：『まちの図書館でしらべる』（柏書房 2002年刊）

7 媒体や検索方法の多様化と使い分け

利用者の情報ニーズの変化に対応できるレファレンスを展開するには？

8 2003年度の受講者アンケート結果 その2 = インターネットの中のレファレンスツール

順位	サイト名	票数	票数/回答総数22名
1	国立国会図書館	9	41%
2	google	6	27%
3	紀伊国屋書店 / 国際子ども図書館 / 東京都立図書館	4	18%
4	JCROSS / yahoo japan / Books.or.jp (日本書籍出版協会)	3	14%
5	TRC(図書館流通センター新刊検索ブックポータル) / webcat / 楽譜ネット / キッズgoo / 実践女子大学図書館 / 政府刊行物 / 電子政府の総合窓口 / 日経GOO / 毎日新聞	2	9%

9 図書館でインターネットをレファレンスにいかすには

9-1 検索方法

(1) 目録などのデータベース検索

蔵書目録

例1 国立国会図書館 (<http://www.ndl.go.jp/>)

例2 東京都立図書館 (<http://www.library.metro.tokyo.jp/>)

総合目録

例1 NII(旧NACSIS) (<http://webcat.nii.ac.jp/>)

例2 Jcross(情報館)横断検索 (<http://www.jcross.com/bibcrs/bibcrs2mnu.html>)

・大阪府立図書館 (大阪府 Web-Opac 横断検索 <http://www.library.pref.osaka.jp/cgi-bin/book.cgi>)

・東京都立図書館 (東京都の図書館 横断検索) 東京都立図書館のホームページから入る

販売目録

例1 Books.or.jp (日本書籍出版協会) (<http://www.books.or.jp/>) 日本書籍総目録のインターネット版

例2 Bookweb (紀伊国屋書店) (<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>)

新聞記事検索 有料データベースが多い。(朝日新聞の朝日DNA、日経新聞の日経テレコン、読売新聞のヨミダス文書館、各紙の記事をまとめて検索できるG-Searchの記事検索など) 無料の索引では

例・全国紙：毎日新聞 (<http://www.mainichi.co.jp/>) 最近2年分を検索できる。

・地方新聞：佐賀新聞 (<http://www.saga-s.co.jp/>) 1994年からの記事索引を公開。

雑誌記事索引

例・国会図書館の雑誌記事索引を利用

・雑誌の新聞 (<http://www.zasshi.com>) 最新3週間の週刊誌、月刊誌等から60種以上検索可

(2) 検索エンジンによる検索・・・図書館にとって有効な検索とは？

特定ホームページへの接続を目的として、組織や固有名で検索する

(官公庁、大企業、公益法人等の責任の所在が明らかなサイトを対象)

ある主題における代表的サイトをさがす場合

「主題 and リンク集」といった検索方法で、その上位にあるものが選択できる。

手がかりを得るための検索

インターネット上の検索は情報量が多いが、信頼できる情報かどうかは個々に判断が必要。
利用者に提供する時には、充分注意を要する。

(3) 案内やリンク集による検索

図書館を探すための有益なサイト例

- ・日本図書館協会のリンク集 (<http://www.jla.or.jp/link/>)
- ・筑波大学の図書館リンク集 (http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/other/other_libs.html)

特定主題を探すために有益なサイト例

- ・東京大学のインターネット学術情報インデックス (http://resource.lib.u-tokyo.ac.jp/iri/url_search.cgi)
- ・実践女子大図書館 (<http://www.jissen.ac.jp/library/frame/newsearc.htm>)

9 - 2 自分なりのリンク集の作成

ホームページ案内資料を読む = 図書や雑誌

代表的なサイトに実際にアクセスしてみる。

自分の「お気に入りのページ」に追加整理する。

各自で記録も作成しておく（エクセル等を利用）

URL、サイト名、作成者名、特徴（使い勝手、長所や短所）、感想、アクセス日付
サイト内容を確認し、リンク切れや変更箇所を確認する。

9 - 3 インターネットホームページ評価の観点

作成者（責任の所在）、作成目的（作成方針等）、内容（正確性、公平性、客観性、更新頻度）

ホームページの構成（デザイン、見やすさ、使いやすさ）、類似サイトとの相違・特徴、他のサイトからのリンク（引用率）など。

10 職員のレファレンスツール活用促進と情報の共有化の実践

- ・東京都立中央図書館サービス部情報サービス課課内研修の取組
平成14年度から実施、館内整理日（月1回）の職場内研修の試み
- ・身近な日常的仕組み作りの努力・・・自己研鑽を支えるもの

「教えること = 学ぶこと」

「情報の共有化」

ベテランも中堅も新人も、ともに学びあえる環境の構築

11 おわりに